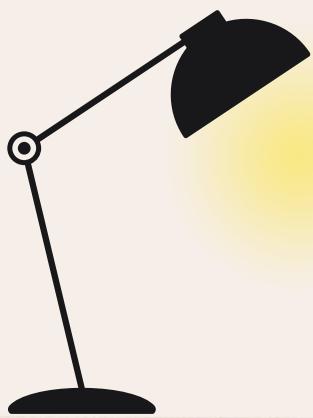


つくばみらい遠藤レディースクリニック

無痛分娩のご案内





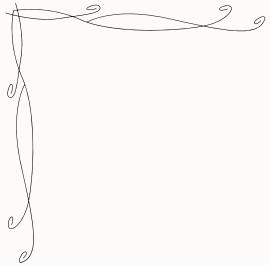
もくじ

- 1 無痛分娩とは
- 2 当日-産後までの流れ
- 3 リスクと対処
- 4 無痛分娩ができない場合
- 5 費用

1 無痛分娩とは

I

無痛分娩とは



無痛分娩とは

主に“硬膜外麻酔”を用いて

陣痛や赤ちゃんが産まれるときの痛みを和らげるお産



「無痛 ≠ 痛くない」

痛みを和らげるものです。痛みが完全になくなるわけではありません。



お腹が張る感覚を残し、ご自身でいきんできむことが可能になります。



アメリカやフランスでは約8割が無痛分娩で、日本でも希望者が急増中です。自治体によっては助成金が出ることもあります。

I 無痛分娩とは

II 無痛分娩のメリット・デメリット

メリット

1. 痛みの軽減

麻酔により陣痛の痛みが大幅に軽減されます。

2. 体力の温存

体力の消耗が少なく、落ち着いた状態で出産に望めます。

3. リラックスできる

痛みが軽くなる事で、不安や恐怖が減り、リラックスして出産に望めます。

デメリット

1. 経済的負担

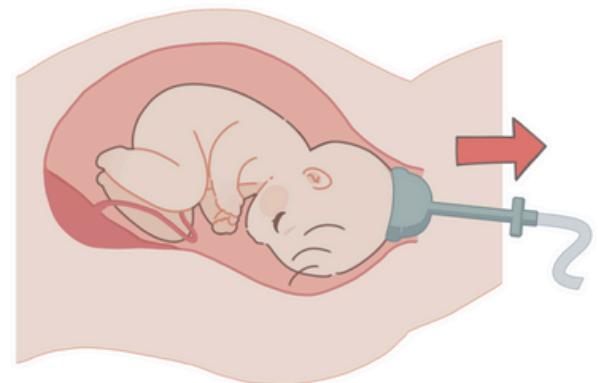
10-14万円程度の追加費用が掛かります。

2. 分娩時間の延長

陣痛（子宮収縮）が弱くなり、その結果、出産時間が延びることがあります。

3. 医療介入の増加

分娩時間が長くなると、赤ちゃんへの負担も大きくなるため、吸引分娩により赤ちゃんが外に出てくるのを医師がサポートする事があります。



1 無痛分娩とは

III 計画無痛分娩（当院における無痛分娩）

計画無痛分娩

当院では、外来で医師との相談の上、あらかじめ出産する日を決め、その日に陣痛促進剤を使用して陣痛を起こし出産する計画無痛分娩を推奨しています。

◆ メリット

出産日を前もって決められるため、里帰りや家族の都合が調整しやすくなります。お仕事で忙しいパパも立ち合い分娩が可能となります。



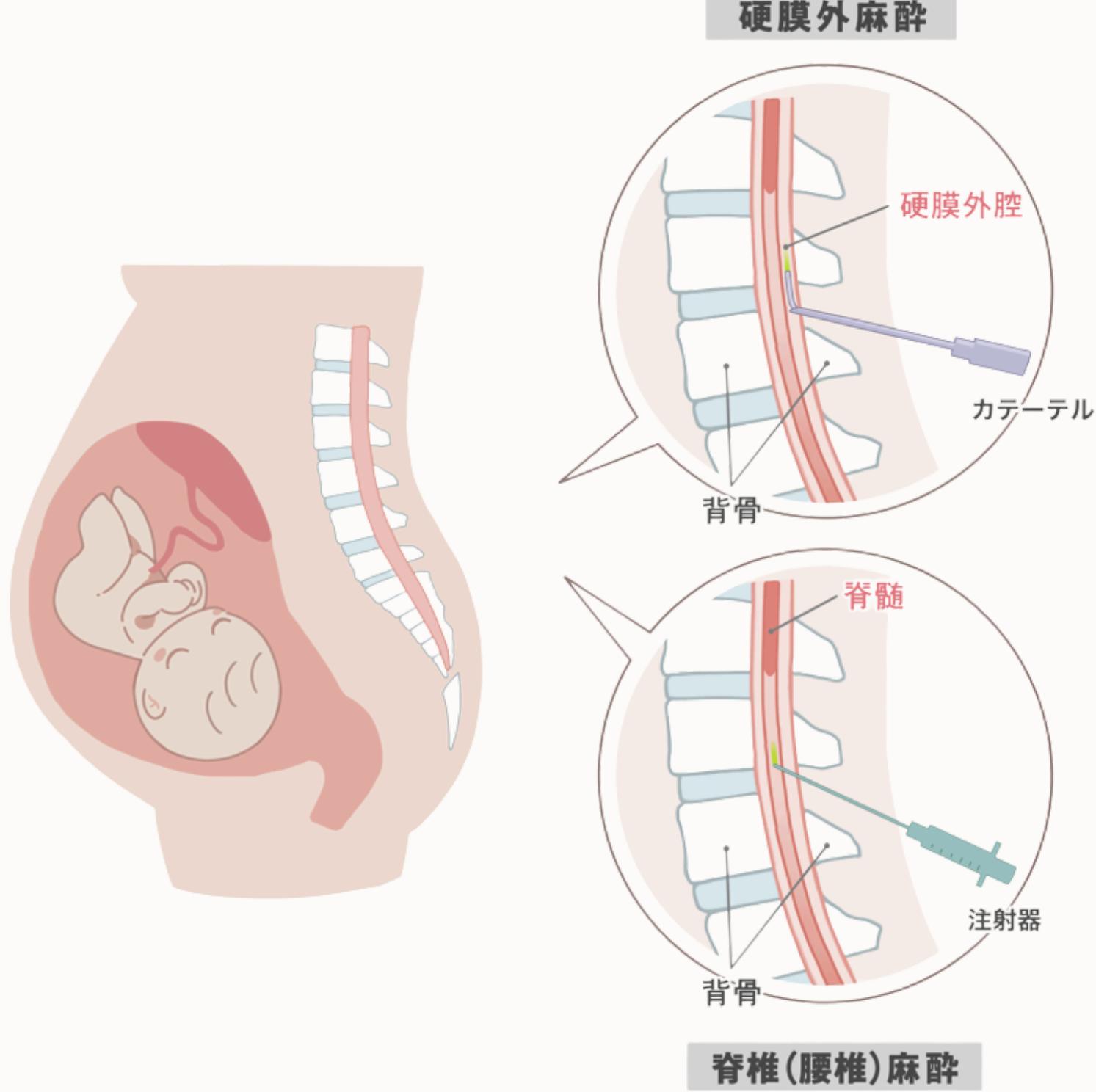
自然に陣痛が来た場合でも、

24時間無痛分娩に対応していますので
ご安心ください。

1 無痛分娩とは

IV

麻酔の種類と違いについて



一般的な無痛分娩では、硬膜外カテーテルを用いた麻酔が使用されます。痛みの程度や分娩の進行に合わせて、脊椎くも膜下麻酔を併用することがあります。

1 無痛分娩とは

V

産科麻酔外来

無痛分娩をご希望の方は、30週以降に産科麻酔外来を受診していただきます。メリット・デメリット・注意点など十分にご理解いただいた上で出産に臨めるよう、麻酔科専門医からご説明させていただきます。

無痛分娩を検討している方や無痛について知りたいという方も、同時期に産科麻酔外来をご案内いたしますので、ご相談ください。

産科麻酔外来・・・2,000円



 産科麻酔外来未受診で無痛分娩を選択される場合

無痛分娩費・・・+35,000円

事前にリスク評価が行えないため、ハイリスクとして対応させていただきます。



2 当日-産後までの流れ

I

食事制限

食事 前日21:00まで

薬の影響で吐き気が出る可能性があるため

飲水 時間に制限なし

水、お茶、清涼飲料水のみ

II

前日の流れ

計画無痛分娩の場合

※CTG：胎児心拍陣痛モニター

15:00 入院（CTG、検温など）

18:00 夕食

20:00 検温・CTG

21:00 禁食開始

22:00 必要時診察・処置・CTG

状況に応じて、3～4時間毎にCTGモニターを装着して赤ちゃんの様子を観察します。

可能であれば、ご自宅でシャワーを浴びてからご来院ください。

2 当日-産後までの流れ

III

当 日



背中をエビのようになまります。腰から特別な針を使用して背骨の中の硬膜外腔へ直径1mm程の柔らかいカテーテルを挿入します。そこから麻酔薬を注入することで陣痛の痛みを軽減します。

2 当日-産後までの流れ

IV 当日 ~無痛分娩中の過ごし方~

麻酔薬が入ると、20-30分ほどで陣痛の痛みが楽になります。同時に下半身の感覚が鈍くなり、足がポカポカと温かくなったり、しびれたりします。足をつねっても、まるで皮膚が分厚くなったかのように痛い感覚がなくなります。足が動かしにくくなることもあります。

妊婦さんと赤ちゃんの様子を観察しながら、医師の判断で薬を投与していきます。

お産の進行に伴い、痛みの場所や強さは変化します。その際は遠慮なく助産師または麻酔科医へお知らせください。

◆ 安静度

無痛分娩中は麻酔の影響で足に力が入りにくくなるため、基本的にベッド上で過ごしていただきます。ベッド上の体勢は自由です。

お産の進行中は、血圧計や胎児心拍陣痛モニターを常に装着し、適宜内診所見も確認させていただきます。

◆ トイレ

麻酔薬の効果で陣痛の痛みが和らぐと、尿をしたい感覚も鈍くなります。排尿しないまま尿が膀胱に溜まり続けると膀胱に負担が生じますので、助産師が定期的に膀胱に管を入れて尿をお取りします。

3 リスクと対処

I 無痛分娩の際に起こりうる合併症①

1. お母さんの血圧低下

血圧を適宜測りながら対応します。

2. 赤ちゃんの心拍数の低下

無痛分娩を始めた直後は、一時的に赤ちゃんの心拍数が低下することがあります。

3. 痛みのコントールが不十分

約10%の方は、十分な鎮痛効果が得られない場合があります。特に、分娩の急激な進行や、赤ちゃんの向きによって、痛みのコントロールが難しくなることがあります。

4. 発熱

分娩時間が長引くと38°C以上の発熱を起こすことがあります（約10%）。

5. かゆみ

無痛分娩の副作用でかゆみが出ることがあります（約50%）。

II 無痛分娩の際に起こりうる合併症②

6. 局所麻酔薬中毒、高位脊髄くも膜下麻酔

無痛分娩中、気分が悪い、脚がしびれて動かない、などの症状が出たら、すぐにスタッフに知らせてください。

7. 分娩時間の延長

子宮の出口が全部開いた後、赤ちゃんがなかなか生まれてこない時には、吸引分娩でお手伝いをします。

8. 頭痛

産後の頭痛が約1%の方に見られます。1週間以内に改善することがほとんどです。

9. 排尿障害

産後、おしっこの感覚が一時的に鈍くなることがあります。

10. 硬膜外血腫、硬膜外膿瘍

産後に、背中の痛みや強い脚のしびれが続く場合はスタッフにお知らせください。

4 無痛分娩ができない場合

I

当院での無痛分娩適応外の方

- ・ BMI 33以上
- ・ 血小板が $\leq 10万/mm^3$ 以下や急激な血小板数減少がある／凝固系異常やその治療中である
- ・ 既往歴に血液疾患がある
- ・ 側弯や脊椎の手術歴がある
- ・ 麻酔アレルギーの既往がある



無痛分娩は、分娩経過、母体・胎児の状態、医療上の判断により、**実施できない**、または途中で**中止**となる場合があります。

5

費用

計画	10万円
自然待機	14万円

時間外加算等

時間外	1万円
深夜	2万円
休日深夜	3万円
計画日前に 陣痛発来の方	1万円
麻酔外来 未受診の方	3万5千円



《やむを得ず帝王切開となる場合》

無痛分娩に対する硬膜外麻酔カテーテル挿入・管理に
かかる費用5万円はご負担いただきます



最後までご覧いただき

ありがとうございました



無痛分娩について

疑問・質問等ございましたら、

医師、助産師へお声掛けください。

